


獨協大学長 殿

学外研修報告書

私は、学外研修員として出張しておりましたが、このたび研修を終えて帰任いたしました。
つきましては、次のとおりご報告申し上げます。

報告日	2021年6月20日	所属	ドイツ語学科
職名	准教授	氏名	ヒタヒ マチアス 
研修種別	1. 海外 2. <input checked="" type="radio"/> 国内	研修種類	<input checked="" type="radio"/> 長期 2. 短期
研修期間	2020年4月1日 ~ 2021年3月31日		
学外における主な研修機関および訪問先			
出張目的または研究題目 ① 土家本幸一の自伝の独訳と解説 ② 月良役四の自伝的テキストについての研究			
資格 1. 年度獨協大学学外研修員（派遣） 2. 本学承認の学外研修員（自費等） 3. その他（ ）			
大学から支給された費用（要清算書類）・補助金額			50万円
研修内容（1. 研修経過の詳細 2. 研究成果発表の予定 3. その他 を記入）			
別紙をご覧ください。			

提出先：所属学部長→学長→人事課

裏面につづく

研修内容： 研修経過の詳細、研修成果発表の予定

① 塚本幸一の自伝「私の履歴書―塚本幸一」の独訳と解説

ワコールホールディングス株式会社及び日本経済新聞社と交渉し、翻訳の許可を得た上で著作権料もお二方とも不要との確認が出来た。2020年11月24日ワコールホールディングス株式会社本社を訪ね、コロナのため閉店していた「ワコール ミュージアム オブ ビューティー」に特別許可で入り、コーポレートコミュニケーション部の担当者の方に案内していただいた。その際、翻訳に当たる様々な不明点と疑問（主に物作り・生産技術・市場の開拓・金融関係）に対応してくださった。今現在ワコール創業者の塚本幸一氏の自伝「私の履歴書」（1991）の翻訳の原稿が出来ていて、仕上げの段階に入っている。3カ国語（日本語・英語・ドイツ語）の資料取材を終了し、解説・入門は現在執筆中で2021年の9月末まで（完成版のページ数が分かる程度）に本学の学術図書出版助成を申請出来るよう終らせる予定である。ドイツの出版社 IUDICIUM 社に既に出版の承諾を得て見積書を作って頂いた。学術図書出版助成が通れたら2022年中にベルリン自由大学日本学のイルメラ・日地谷・キルシュネライト教授が編集されている「Iaponia Insula - Studien zu Kultur und Gesellschaft Japans」（日本文化と社会研究）シリーズの一部として出版する予定である。

② (日本人) 服役囚の自伝的テキストについての研究と論文執筆

服役囚が自身について書いた文章に現れる「自分」は、創作的なライティング・プロセスだけでなく、新たに自らが作り上げた過去の思い出（メモリー）をも用いたプロセスの結果であると考え。そのため、精神学・記憶研究の研究結果にて服役囚独自の視点（パースペクティブ）を調べ、服役囚の執筆の動機と自らの人生、特に現状に導いた道の解釈パターン並びにプレゼンテーションモードに重点を置いた。そこでフランスの哲学者ミシェル・フーコーは、その時代、絶対的に受動的な存在であった服役囚は常に一方通行的な目的語にしかなりえず、主語としては絶対に現れないとした。しかし自分の研究では服役囚が書いた自伝という新たな存在を通し、それまでなかった能動的な服役囚という存在を諦めることなく、見出すこと

に挑戦したかった。長期学外研修開始前、2017年に米国テキサス州で死刑執行となり、亡くなったロバート・プルエット(1979-2017)の未発行の自伝原稿を彼の妻から入手できたため分析する予定であったものの、長期学外研修開始までにまだ進捗が滞っていた。それが日本人服役囚の自伝的テキストの研究に際する準備の一つだと考え、元の予定を見直し、①で書かれている翻訳プロジェクトを進めながらひとまずプルエット氏のテキストの分析を行い、2022年春学期の紀要に掲載する予定である。続いてその研究結果を考慮して、長期学外研修中に集めた資料を使用して日本人服役囚の自伝的テキストの分析を進める予定である。